

元気でね！  
パブー！！

いっしょにみんな  
おめでとうだね！  
ちよるるーパブー！！

いい思い出を  
ありがとう！  
パブー！



たびだつ

パブーへ！

絶対忘れないよ！  
3 - Bのみんな！

なるように  
なるように  
パブー！

俺たちの「ジュ」  
忘れんなよー！  
パブー！！

## 戸田環紀さんより～パブー閉店に寄せて～

---

パブーに初めて小説を公開したのは2011年だったと思う。

それまでにメールもSNSも使ったことはあったが小説をネットで公開したことはなかったので、小説の手直しをするのはもちろん表紙に使う写真を選ぶのもフォントを選ぶのも何もかもが楽しかったのを覚えている。

何よりも印象強く覚えているのは、初めて公開した小説が誰かに読まれ、カウンターがゼロから1に変わった、本当の意味でのあの一瞬間だ。

自分の内に籠もっていた言葉が外へと出、誰かに読まれたのだというあのときの震えと喜びは、今でもありありと覚えているし、これからも忘れることはないだろう。

今回弦楽器イルカさんにパブー閉店に寄せて何か書きませんか、とお声掛けいただいたとき、いちもにもなく書きましようと思事をした。

ここ数年は文章そのものが書けなかった時期もあって更新がほとんどできずにいたが、前述の通りパブーは私にとって大きなきっかけと喜びをくれたサイトで、閉店を仕方ないと思いつつも、一抹の淋しさは感じていたのだ。

数ある投稿サイトの中からパブーを選んだのは、ただひたすらはりねずみのイラストが可愛かったからだ。縦書き機能がなかろうがe-PUB更新がメンドくさかろうが、はりねずみたちが可愛らしかったので、まあよかった。これからもたくさんの投稿サイトができるだろうが、自分の作品を載せるサイトのデザインが好き、というのは、作家が投稿サイトを選ぶ上で大きな理由になると思う。

ところで弦楽器イルカさんと私は元々知り合いだったと思われる方もいるかもしれないが、弦楽器イルカさんとはパブーを通して知り合った。

最初は何で知り合ったんですっけね。たぶん作品へのコメントとかそれからだったと思うんですが。

それから他の方も一緒に色々な企画物を書いたりゲームブックに参加させていただいたり、楽しい時間を過ごさせていただいた。ばかりでなく、メールのやりとりを通し、様々な折に助けていただいたり励ましていただいたりしたことも何度もある。

一度も会ったことがないのが不思議なくらい、昔から知っているような気はするんですがね。確かに。

こんな個人的なことを書くのも、パブーがなかったら弦楽器イルカさんとも会えなかったんじゃないかと、やっぱり思うから。

まあでも、パブーで色々やって楽しかったよね、そんな日もあったよね、という美しい思い出は置いておいて、何かの終わりは何かの始まり、これからも図太くしぶとく自分たちの言葉を綴っていきましょう。

ただ、区切りとして、パブーを通して今まで作品を読んでくださった方々には、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

何気なく開いた本の中にそのとき悩んでいたことの答えやはっとさせられる言葉があって、本

に「呼ばれたんだな」と思う瞬間が、私自身これまで何度もありました。

私の書いたものがいつか誰かにそう思われたらいいな。少しでも「これを読んでよかった」とか「もうちょっとがんばってみようかな」とか「こんな人もいるんだから、私だって普通だ」と思ってもらえたら、私が書いている意味も、少しはあるんじゃないかと思うから。

あなたにこれからも素敵な本との出会いがありますように。

願わくば、魂が共鳴する運命の一冊と出会えるように。

2019年4月30日 平成最後の日に

戸田環紀

[https://note.mu/toda\\_tamaki](https://note.mu/toda_tamaki)

2010年末からの約10年間、KAGEROU先生からの学びに始まり、古いPCと一緒に処分されるはずの文章や、浮かんでは消えるだけだった考えに、自分なりの筋道と熨斗（のし）つけてネットの海に瓶詰で放擲することが出来ました。

しかもその瓶が漂流した結果、素敵な作品を通して刺激を与えてくださる方々と交流もできました。

世間では無風だったドラマのムービー化という小船を浮かべて、一人無駄にオールを漕いで盛り上がりました。

心の底で海藻のように育ちながら揺れるだけの笑いや、恋愛や、その他モロモロの妄想にも一区切りつけました。

「無評の評」という錨も下ろすことが出来ました。

そして、始める前には構想さえなかった『人工知能の夢』という島にも漂着できました。その際、ウマとシカなどの骨で出来たイカダがとても役に立ちました。

震災という大きなうねりに呑まれながら、ずぶ濡れの素人が書く意味について考え続けました。

これから自作のHPを作るのか、また別のNOTEにメモしたり、なる気もないのにならうかならないのか、お引越通知をここに残すべきかどうかも含め、決めかねています。

他の電子書籍のサイトはなんかTOPページがスポーツ新聞の一面っぽかったり、意識高い系のスタバリンゴ臭がしたりしなかったり、高額な自費出版が（あなたには）ゴールだったりしそうで、どうなんだろうとあぐねる日々です。丘の上ひなげしの花で占う日々です。

とはいえ、ブラウン管テレビの上に修学旅行で買って来たダルマとかデカイ王将を置いて他人の様子をうかがう感じ、そういう間違っただけの檸檬の置き方こそが、パブーの華ではないかと勝手に開き直ってきました。

というのもだいぶ前から、「電子書籍サイトって大手出版系と組まないで既存の書籍ビジネスと敵対することになるし、既に先越されてるし大丈夫か？」という危機感を持ちながら、パブーの儲けにつながるような動きを一切する気なしの自分を「ウマシカだからやむなし」と正当化する必要があったからです。

往年のアイドルがステージ上にマイクだけを残して跡を濁さず引退するように、私もそっと置いた電子書籍を「いい夢見させてもらったよ、あばよ！」の捨て台詞と共に爆破する勢いで、とりあえずこのくらいで勘弁してやるよ、パブー。今までありがとう。この文章と共に、海の藻屑と消えるがいいわ。

